

カトリック仙台司教区・ **カリタスジャパン** 東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座:02260-9-2305
名義:カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座:00170-5-95979
名義:カリタスジャパン

仙台教区内での復興支援活動は、東日本大震災によって、大きな被害を被った地域にベースを置いて行っています。3.11にはどのベースでも、被災者の追悼と復興を祈願して、いろいろな計画を立て実行しました。その中の大船渡と石巻ベースでの活動をご紹介します。また、名古屋教区では、司祭協議会が主催して、教区を挙げての大きな集会が行われました。ご紹介いたします。

各ベースの3月11日 (カリタス大船渡ベース・カリタス石巻ベース)

《 寄り添い の精神を さらに深めていきましょう 》 カリタス大船渡ベース スタッフ一同

東日本大震災から3年を迎えた日、大船渡では青空が広がりながらも時折強い風の中に雪がちらつき、3年前のあの日と同じ寒い日となりました。

カリタス大船渡ベース「地ノ森いこいの家」では、スタッフの他に9名のボランティアが来ており、午前中は「お茶っこ」や仮設住宅訪問、午後は教会の追悼ミサや市の追悼式典に参加したり、三陸鉄道「震災学習列車」に乗ったりと、それぞれに分かれ、3.11を過ごしました。

大船渡教会では、高松教区の諏訪榮治郎司教様の主司式で、塩田希神父様、佐々木博神父様他4名の神父様方による「犠牲者追悼・復興支援ミサ」が午後1時30分からささげられました。



祭壇の前には津波で亡くなられた大船渡教会の5人の信者さんのお名前と、流されてしまった納骨堂に安置されていた11人の方のお名前が記され、5つのろうそくが灯されました。

お御堂には大船渡教会の信者さんの他に、近隣の教会や全国各地から約50人の信者さんが集まりました。

ごミサは、塩田神父様と諏訪司教様のお説教に続き、津波や原発事故に苦しむ方々への思いを込めた共同祈願、「被災者のための祈りⅡ」を日本語と英語で唱え、「主の祈り」を日本語とタガログ語で歌いました。

聖体拝領後、大船渡教会の金野幸恵さんによるケセン語の祈りが唱えられ、ごミサに参加した全員の心を強く打ち、涙を流して祈る姿が多く見られました。

ごミサ後、全員で焼香し、午後2時46分、市のサイレンが鳴る中、教会の鐘、近くのお寺の鐘が鳴り渡り、それぞれの場所、それぞれの思いで黙祷を捧げました。その後、参加者の皆さんとお茶を飲み、交流し、追悼の思いと和やかさを感じるひとときを過ごしました。

午後6時からベースにおいて、京都教区の大塚喜直司教様を囲んで食事会を行いました。教会の方やボランティアなど、合わせて35人の方々が集まり、ろうそくの光が静かなホールの中を照らし、司会者の「黙祷」の言葉を合図に祈りの時を持ちました。

「三年前、寒さの中で一つのおにぎりが、どんなにありがたかったかを思い、今夜の食事をいただきます。」とのベース長エドガル・ガクタン神父様の挨拶で食事会が始まりました。

続いて大塚司教様が、「ベースが3年目を歩き始めました。『寄り添い』の精神をさらに深めていきましょう。」と話されました。

食事はカレーライスとサラダのシンプルなメニューでしたが、十分に満たされました。最後に山浦玄嗣さんが「お陰様で3年、生き延びました。確かに復興は進んでいます。これも皆様のお蔭です。明日は、明るい日と書くように、これからもよろしく。」とご挨拶されました。感謝のうちに良き集いとなりました。



2014年3月11日 大船渡市の様子

《2014年3月11日の石巻被災地巡礼》 カリタス石巻ベース スタッフ 氏家 真理子

東日本大震災から丸3年の節目を迎えた石巻の朝。一階オープンスペースの窓から見える石巻の空は暗く、雪混じりの風が冷たく吹き荒れていました。昼頃に天候は回復したものの、地元の人々は3年前のあの寒い思いをした当時を思い出している様子でした。

カリタス石巻ベースでは被災地巡礼としてボランティア、スタッフ、地元の方々とともに総勢23名で石巻市内を歩きました。

午後1時半にベースを出発、長い坂の上にある初期のカリタス石巻ベース拠点となったカトリック石巻教会へ向かいます。震災当時この長い上り坂を多くの人が津波から逃れるため駆け上がったのだと思うと、石巻を襲った津波の凄まじさを感じます。



坂の途中には、石巻ベースが最初にボランティア活動（避難所内での毎日のお湯出し）をした門脇中学校があり、当時を知るスタッフや地元の方々は足を止め、門脇中学校の体育館を眺めていました。

日々活動しながらも「あの時避難所でお世話になったカリタスさん」と声をかけて下さる方が多いのは、そういった積み重ねと石巻の方々の感謝の気持ちがあふれているからだと感じることができます。



午後2時、日和山公園に到着。設けられた献花台に花をささげ、祈る人、多くの報道陣、様々な団体の方が日和山公園から見える景色を眺めていました。

日和山公園には、震災以前の風景写真が飾られています。青い海と緑豊かだった風景は跡形もなく、海に近い南浜・門脇地区は3年経った今でも更地のままで、ところどころに嵩上げのために使う重機やトラックが見えましたが、あまりにも数が少ないと感じてしまうほどです。それは日和山公園から南浜・門脇地区へ続く階段を下りその場に立つと、より一層その思いは強くなりました。足元には未だ小さい瓦礫が残っていたのです。「これでも綺麗になったほうだよ」と一緒に歩いていた地元石巻の方は言います。

そして午後2時46分に防災サイレンが鳴り響き、被災地巡礼参加者総勢23名は門脇地区で黙祷を行いました。

カリタス石巻ベースは、嵩上げや建物の建設など直接的な復興活動は出来ません。しかし震災を風化させないこと、地元石巻の方々の「心の復興」に寄り添うことの大切さを改めて感じ、自分たちの足で歩くことにより、それぞれ震災への思いとカリタス石巻ベースとして活動を続ける意義を今一度見つめ直すことが出来たように思います。



被災地支援への名古屋教区の取り組み

名古屋教区社会福祉委員会

名古屋教区では、東日本大震災から3年になる3月11日、「被災地支援への名古屋教区の取り組み」と題して、支援報告会ならびに「東日本大震災犠牲者追悼・復興祈願ミサ」が、500人を超える参加者を迎えて司教座聖堂・布池教会で開催されました。

司祭協議会が呼びかけたもので、修道女・在俗会連盟、信徒使徒職協議会が共催、事務局として社会福祉委員会がお手伝いをして実現。名古屋教区所属の大阪教会管区が支援を担当する大船渡ベースから、深堀崇事務局長をお招きし、午後2時からベースの活動について映像と共に報告をいただき、大船渡市及び陸前高田市での支援活動の困難な状況を語る講演に、参加者は聴き入りました。

事務局長として現地にかかわる深堀さんが強調したのは、東北で困窮している人たちを忘れないでほしい、東北に来てほしい、眼にしてほしい、そして現地の物品を購入してほしい、ということでした。それがそのまま復興支援であると。



講演後、新しい東日本大震災被災者のための祈りを全員で唱え、震災発生 of 午後2時46分に布池大聖堂の鐘が鳴り始め、全員で1分間の黙祷。司教代理で岩崎一二三神父様主司式によるミサ、南山大学スコラカントルムの聖歌隊コーラスにより、500人の祈りがささげられました。岩崎神父様は説教で「私たちは3.11を忘れない」と結ばれました。

ミサ後は地下ホールで、被災地から取り寄せた物品や手作り品の販売、被災地の写真、パネル展示、スライド映写コーナー、コーヒー、ジュースのサービスコーナー等設置。大勢の人々が集まり購入に協力をいただきました。

ミサの献金と販売収益はすべて、大阪教会管区を通じて『大船渡ベース』支援として送金させていただきました。



また同日、名古屋教区の支援取り組み状況、小教区、修道院、個人の方より寄せられた報告をまとめた報告書「私たちは3.11を忘れない」を発行しました。

このタイトルどおり、被災地へ名古屋からのメッセージとして送らせていただきました。

なお、ただ今名古屋教区では、「あなたの目で被災地の今を見るツアー2014」(6/16～6/19)を計画。参加者を募集中です。



震災後3年経ってようやく話することができるようになった方が多く見られるようになったのですが、抱えている問題の深刻さに聞いているスタッフも辛くなってくることがあります。私たちは専門家ではなく、利用者の疑問に答えを見出すことはできないのですが、真摯に耳を傾けることを大事にしたいと思っています。スタッフがこれ以上聞くことが無理だと感じた時には、専門家の助けを借りなければなりません。またスタッフ自身の話を定期的に聞ってくれる専門家の必要性を感じています。スタッフが疲弊しないように、精神的な健康管理と十分な休みを考えていかなければならないと思っています。

仮設住宅のお茶会は、同じような参加者になっています。「初めての人は入りにくい。」という話を聞くことがあり、スタッフは初めての人も参加しやすいように心がけ、常連さんと初めての方のクッション役を担っています。



石巻市立門脇中学校・美術部の生徒に書いていただいた壁画

お茶会に参加しない住民さんに声をかけながら、戸別にコーヒーを配るサービスを再開したいと思っています。実は、しばらくの間、スタッフ不足で休止していたのです。小規模のところ、他団体撤退の仮設住宅お茶会開催の依頼があるのですが、人員的に応えることができない状況なのが苦しいところです。これから仮設住宅を退去し復興住宅に入る方も不安を抱えており、新しいコミュニティづくりの必要性を感じています。また行き先が決まらず残されていく住民さんにも、寄り添っていきたいと思っています。

支援を必要としているところと、支援をしたいというところをつなぐ役割をベースは持っています。ベースとしても将来を見通し計画を立てたいのですが、見えてないのが本音です。活動を続けながらその時その時のニーズに応じていく姿勢は大切にしたいと思っています。そして、ボランティアも何かをしてあげるといふ姿勢ではなく、現地の方々の生きる姿勢から何かを学ぶことも大事だと思います。

2013 年をふりかえって・2014 年に向けて 【石巻ベース】

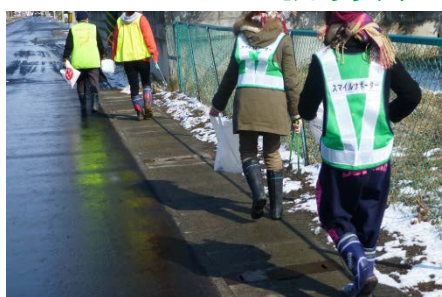
今年も仮設住宅訪問を続けていきます

カリタス石巻ベース ベース長 Sr. 細谷 朋子

2014 年度も下記の活動を継続していきます。

- ・オープンスペースでのお茶会
- ・仮設住宅お茶会
- ・米川ベースと協働で南三陸での活動
- ・スマイルサポーター活動（近隣歩道の環境整備、植栽、草取り等）

【カリタス石巻ベース 活動の様子】



石巻ベースは、ベース内のオープンスペースでの活動、仮設住宅でのお茶会の開催が主な活動です。

また、ベース会議室は使用料が無料ということ、さらに静かな環境が喜ばれ、定期的に利用している団体があります。特に高齢者の編み物グループが月2回利用し、平日でもベースに顔を出されるようになり、関わり広がっています。

オープンスペースの利用はほとんどが常連さんであり、ご自分のペースで利用されている方が多いのですが、その中であって時々ふっと立ち寄り方もいらっしゃいます。少し慣れた頃に「実は・・・」とご自分が抱えている悩みをお話しされる場合があり、スタッフも言葉を選びながら慎重に対応しています。



2014 年度 石巻ベーススタッフとボランティアさん